
不思議な短編ストーリー集 「美女」編

kei

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

不思議な短編ストーリー集 「美女」編

【Nコード】

N27300

【作者名】

kei

【あらすじ】

世にも奇妙な話が好きなので書いてみました。

是非お読みください。

「伊藤君、わたしと付き合ってください」

「無理、絶対無理」

はあくまじ気分悪いわ、うちの高校で一番のブスの岡村に告白された・・・

ガラガラ

「おっ！伊藤じゃくん昼休みに学校一の美女の坂本さんに呼びだれて何だったんだ？」

「それがよお、マジで騙されたわ。坂本さんって岡村と仲良いだろ？岡村の奴が

坂本さんに頼んでおれを呼び出したらしいぜ。そんで告られた」

2

「わはは！マジかよ！でもお前たしか岡村と小学校から一緒に、家近いんだよな

？付き合っちゃえよ」

「は？馬鹿言ってるじゃねーよ！ぶっ飛ばすぞ黒田！」

「冗談だよ！坂本さんだったらよかったな」

全くだぜ

「あゝ全ての女が坂本さんの顔だったらな」

「それまじで最高だろ！でも絶対ありえねーから」

わかってるよ・・・でもほんとにそうだったらな

放課後、伊藤は黒田話しながら帰っている

「黒田くおれ女の顔がみんな坂本さんだったらさ、誰とでも付き合えるぜ」

「マジかよくおれは無理だなくおれは性格重視だから」

「わはは、嘘つくなよ。じゃあな」

「じゃっ」

実際ヤバすぎだろ、みんな坂本さんだったら。
なーんてくだらないこと考えても無駄か。
あつ岡村だ。あんなチビでデブなブスと誰が付き合うかよ、ほんと騙されたぜ。

「ただいま」

「おかえりなさい」

今日は気分わりいから飯食ってさっさと寝るか。

次の日の朝

リリリリリリリリ

「くあーよく寝た」

11時間くらい寝たかな・・・
下降りて顔洗おつと。

「おはよ・・・う

えっ！？岡村？？なんで母さんが岡村の顔してるんだ？？テレビの
アナウンサーも・・・」

「うわぁー！ー最悪だーっ」

ガバッ

ハアハアハア

「夢か・・・」

最悪な目覚めだな

「おはよう」

「あら早いわね、おはよう」

「ん！？」

これは夢じゃないよな！？

伊藤はほっぺたをつねる

イテテ

「夢じゃねえ！女が坂本さんの顔になったー！ー！！」

「あんた何寝ぼけてんの？早く顔洗ってきなさい。」

「ふーっ」

落ち着くんだオレ。

母さんは坂本さんの顔になっていた。
おれの望み通りになっただんだ！

母さんは気づいていないみたいだな。つまりおれだけ女の人の顔が坂本さんに見えるのか。

黒田はどうなんだろ？聞いてみるか

ブルブル

「もしもし黒田、お前の母さん顔変わってる？」

「はあ？変わってないけ……」

ブチッ

おれだけそう見えるのか。黒田に話しても信用されないだろうし、バカにされそうだから話すのは辞めとか。

よし！とりあえず学校行ってみよう。

伊藤は学校に行く支度を終えて家を出た

「行つてきまーす」

あの人も坂本さん、この人も坂本さんみんな坂本さんだぜ！髪型、体型、でなんとか人の区別はつきそうだな。

ガラガラ

「おはよう皆！」

「おつ伊藤機嫌いいじゃん。つか朝の電話なんだったんだよ?」

「ああそのことなら、気にすんな。」

「いやゝそれにしても絶景だなあ!クラスの女子みんな坂本さんの顔だぜ。」

「あいつは背がでかいから市川だな。あいつは胸がでかいから小池か。」

「なにじろじろ見てんのよ?」

「ああわりい」

「ちっ声はそのままか。」

「それでもこの顔なら許せるぜ。」

「学校の授業が終わり下校の時間になった。」

「いやあゝ今日は楽しかったねゝ黒田くん」

「お前何言ってたんだよ?今日のお前キモいな。あつ、あの人見ろよね、超かわいくね?」

「うん、可愛いな」

「だって坂本さんの顔だもんねゝ」

「じゃあ黒田、また明日な」

「おうまたなゝ」

「ガチャ」

「ただいま」

「お帰りがさうい」

家でも坂本さんに会えるなんて最高だなあ

すげーや雑誌まですべての人が坂本さんの顔だ。
毎日が最高の気分だぜえ。

それから4日が経った

ガラガラ

「・・・オハヨウ」

「伊藤、どうしたんだよ最近元気ねーな？」

「ちよつとな・・・」

「大丈夫？伊藤くん。」

「さ・・・か・もとさん・・・？」

「はあ？何言ってるの？小池よ。」

「あ・・・あ・・・小池か」

もう嫌だ。ほかの顔の女の子が見たい、小池は目が細かったっけ、
市川は大きな目をしてたっけ

坂本さん・・・・・・・・

か・わ・い・く・な・い

「うわああああーああーわあーうわああああーああーわあ」

やばい頭がおかしくなりそうだ!!!!!!

あの顔みたくない!!!!!!

「どうした伊藤!？」

「悪いおれ帰る!!!!!!だれも家に来るなよ!!!!!!!!!!」
ガラガラ ピシャ

「はあああ」

ガチャ

「あんたこんな早くどうし・・・」

「ただいま!寝る!」

神様!こんな世の中もう嫌です。僕が間違っていました。
いろいろな顔の人がいるから世の中可愛い人がいるんです。
だから・・・

ああ眠い、最近・・・ロク・・・に寝れ・・・て・・・ない・・・から・・・
な

「起きなさい朝よ!」

「あれ?おれずっと寝ちゃってたのか・・・」

「あんた夜に起こしても起きなかったかからビックリしたわよ」

「あ・・・れ・母さん！元の顔に戻っている！」

「あんた何寝ぼけてるの？顔洗ってきなさい。」
おれは涙がとまらなかった。

「あはは！うん！」

「うふふ、何泣いてんの？」

「おれちよつと外行ってくる！！」

早く坂本さん以外の顔の女の子が見たい！！誰でもいい！早く！

あつ！あいつは岡村

「おい！お前可愛いな。オレと付き合ってくれ」

（後書き）

このような話を書いていきますので、
何かタイトルを頂けたらそれにそった話を作ります

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2730o/>

不思議な短編ストーリー集 「美女」編

2010年10月12日04時44分発行